

# 中国DeepSeek創業者、ネイチャー 誌「今年の10人」に 低コスト のAI開発で世界を驚かす

# 概要

- 英科学誌『ネイチャー』は2025年の「今年の10人」に、中国AI企業DeepSeek創業者・梁文鋒を選出した。
- 低コストで高性能なAIモデルの開発が、国際的に大きな注目を集めた。

## 梁文鋒の経歴

- 梁さんは金融アナリストとしてキャリアを開始し、2008年からクオンツ運用に従事した。
- AIアルゴリズムを株式市場に応用し、実績を積んだ後、AI分野へと活動の軸を移した。

## DeepSeekの設立

- 2023年、中国・杭州市でAI企業DeepSeekを設立。
- 金融分野で得た資金と経験を基に、基礎研究を重視したAIモデルの研究開発を進めている。

## AIモデル「R1」の意義

- 2025年1月に発表されたAIモデル「R1」は、比較的低コストでありながら高い性能を実現した。
- これにより、AI分野における国際競争の構図を再考する契機となった。

### ⑤ 半導体規制と対応

- 米国の対中輸出規制により、高性能GPUの調達是中国企業にとって課題となっている。
- 梁氏は過去にGPUを計画的に確保しており、長期的なリスク管理の重要性を示した。

## コメント

- DeepSeekが低コストで高性能なモデルを実現し、このような賞に創業者が選ばれたという点は象徴的に感じます。
- DeepSeekで印象的であったのは、事前学習のスケール競争ではなく、強化学習を中心に推論能力を引き上げる設計思想です。人手ラベルに依存せず、自己改善ループを回す枠組みは、計算資源制約下でも性能を伸ばせる合理的アプローチであると言えます。
- 応用側のSaaS視点でも、学習コストを抑えつつモデル品質を継続改善できる設計は、粗利やスケール戦略に直結します。今後長い（と言ってもさほど長期でない）目で見ると「どのモデルを使うか」以上に、「どう学習・改善させるか」も競争軸になると考えています。

# 感想

梁さんは長年、金融分野でデータ分析を中心とした研究を行ってきたが、外部条件に制約がある中でもAI分野で大きな成果を上げており、非常に印象的です。また、本事例は、限られた資源の中で研究の重点を明確にし、人材と技術を効果的に統合する点で、学ぶべき価値の高い事例だと思います。

ご視聴ありがとうございました。